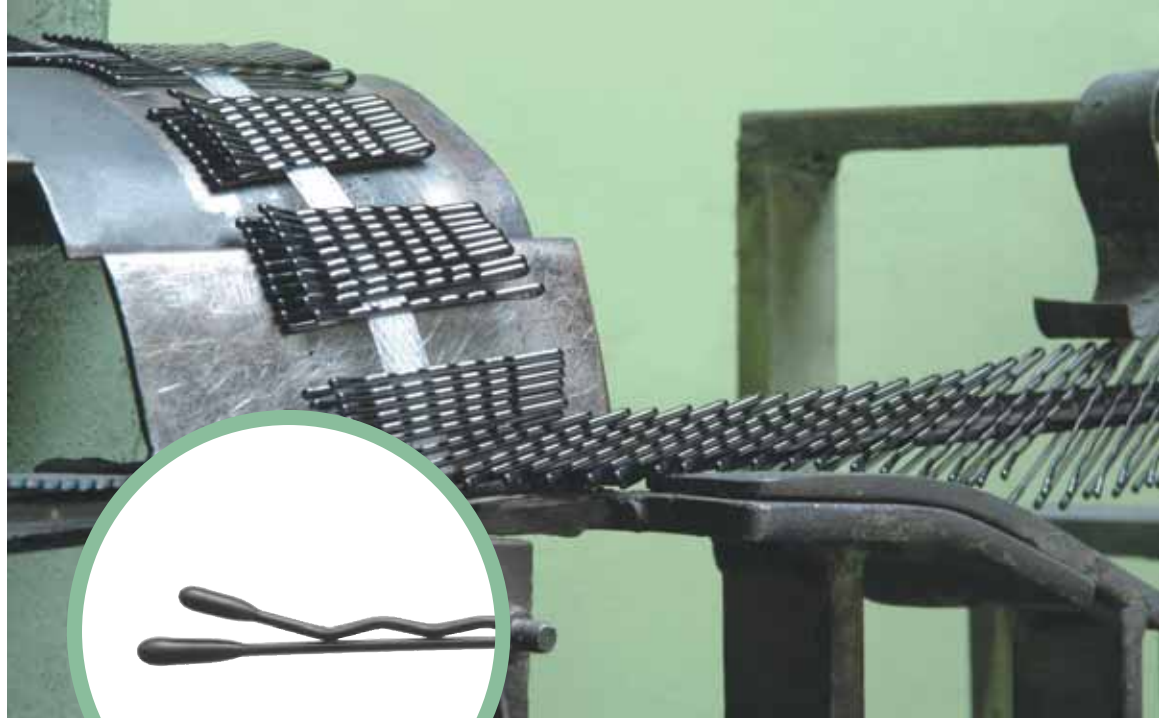


国内最大のシエア ヘアピンのトップブランド



株式会社五力工業

機械化で大量生産に成功

「大阪だから、ここまで大きくなれたのだと思います」。今や国内のヘアピン業界のシエアの大部分を占める五力工業だが、その始まりは大阪という土地に深い意味があったと鎌田益廣社長は言う。

戦後でもない頃、堺の鋼工場から出る鋼くずと、戦時中に使用された割りピン製造機を有効利用できなかったか、と考えたことが始まりだった。当時、手作業が常識だったヘアピンを機械化で大量生産することに成功したのだ。

やがて高度成長期に入った日本ではヘアピンの需要が高まり、機械化を導入した同社に注文が殺到、他社との差が広がっていったという。昭和48年にはヘアピン全自動製造装置の特許を取得し、他社との格差を決定づけた。以前は30社近くあった同業社も現在は4社しか残っていない。

「機械の改良には地元工業高校の先生に協力をしてもらいました。今でこそ当たり前前の産学連携を当時からやっていたのです」と鎌田社長は言うが、ただ機械化で大量生産ができるだけでは生き残っていけないはず。

そこには、機能や安全性を追求する姿勢があった。

その後、研究や改良を重ねた結果、衛生面に配慮して錆びにくい表面焼付塗装を、安全性を高めるために切り口には玉付き加工を施した。また用途に応じて、硬鋼線材・ガラス鍍金硬鋼線材・ステンレス硬鋼線材等、材質を使い分け、独自の伸線加工技術で製造している。

特に高温焼付塗装は磨き発色製品と比較して、数十倍の防錆力がある等多くのメリットを打ち出した。

価格は1・3倍でも 耐久力は30倍

同社の強みは世界各国に販路を持っていることだ。輸出先は欧米、アジア等16か国。それぞれの国の規格や髪質に合う製品を提供している。サウジアラビアでは、女性は頭を覆うスカーフ等を使用するため、ヘアピンが欠かせない。取引開始当初は月2tだった輸出货量が、現在は20tに。世界に「五力ブランド」は広がり、同社の生産量の50%は海外に向けて輸出されている。

美容業界は海外の方が一歩先を歩いているという。「市場調査等は行ったことがないんです。世界各地の需要に依っていたら、自然と流行を先取りする形になっただけ」。鎌田社長は自然な流れだと語るが、求められるものには素早く対応できる企業姿勢が信頼を集めていることは間違いない。

平成2年に百貨店（高島屋）進出を果たしてからは、安い物は作ら

ないと決め、スーパー販売から撤退した。

「価格は3割増しだが、耐久力は30倍」という自慢の製品は、美容学校や美容院で幅広く愛用されている。「美容師さんの手にピンだごできないようにバネ圧を調整し、手に優しく髪にフィットするように考案した」ヘアピンは、機能が最重視されている。

全品目視検査と抜き取り検査を実施し、確かな品質を提供しているのも同社が多大なシエアを誇るゆえんだらう。

主な事業内容

各種ヘアピンの製造・販売、各種ヘアピンの受託生産、各種ヘアピンの輸出品等



鎌田益廣さん
代表取締役

Company Profile

株式会社五力工業

住所 / 〒578-0941
大阪府東大阪市岩田町3-11-11

創業 / 明治4年

設立 / 昭和26年2月

資本金 / 4,800万円

従業員 / 51名（平成21年1月現在）

TEL / 072-961-2255

FAX / 072-965-3233

関西
20

<http://www.goriki555.co.jp/>